

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 043	提案機関名 みうら漁業協同組合
要望問題名 二枚貝養殖種苗確保のための試験研究と種苗供給について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 当地区では、従来取り組んできた冬期の海藻養殖が不振であることから、それに代わるものとしてマガキの養殖に取り組んでいます。 現在 11 名の組合員が参加して、小網代湾内に設置した筏からマガキ種苗を入れた籠を吊るして養殖しています。種苗は現在は徳島県の業者から買っています。 最近、牡蠣の主要産地で養殖している牡蠣の生育が思わしくないとの報道を見聞きします。温暖化やいろいろな理由があるとは思いますが、種苗を買っている側からすれば、供給が不安定になったり、単価が上昇したり、養殖中の死亡が多くなったりすれば、事業に大きな影響があります。 一方、小網代湾内には天然の牡蠣の付着がみられます。地元の親貝を使った種苗はこの地域に合ったものだと思います。 地元の天然の牡蠣を親貝として簡単に、低コストで、質の良い、種苗を安定して生産する方法を試験研究し、それによる3倍体種苗の供給をお願いします。 漁業者が行う養殖の取り組みを続けていくために、ご支援をお願いします。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	水産技術センターにおいて優良な三倍体種苗を供給する体制を整えるにはかなりの時間を要します。一方、マガキ三倍体の種苗は、すでに民間企業から供給を受けることができる状況にあり、現在取り組まれているカキ養殖の事業化を早急に進めるためには、民間企業の種苗を活用するのが得策と思われます。なお、地元産親貝を用いた種苗の活用については知見等を確認し、漁業者の皆様とその有用性等と一緒に検討していくとともに、引き続きカキ養殖が事業として経営的に地元に着定できるかどうかについても検討して参ります。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			